

「熊野古道研修」終了報告

2019年6月13日（木）実施 JGA 第三支部運営委員会

晴天の下、JGA 正会員 19 名と熊野古道を語らせるならこの人と言う飛び切りの語り部で全国通訳案内士でもある栗林 紀美さんが本宮大社に程近い発心門王子に集合した。今日の道のりは約 7 km で健脚なら 2 時間かからない、アップダウンも比較的少ない人呼んで熊野古道のお姫様コース。ここをツアー準備である我々は 4 時間以上かけて丁寧に学びながら歩こうとしている。それぞれの出で立ちはトレッキングシューズにバックパック、トレッキングパンツ。途中のピクニックランチに備えてランチと給水用のペットボトルを準備。バスツアー以上にケガのリスクもあるので各種救急用品と、久しぶりに履くシューズが壊れるお客様に対応するためにシューズ修理用の接着剤や応急用の手ぬぐいなど、諸々のアイテムを持つと、意外にガイドの持ち物はずっしりと重くなる。おまけに根っからガイドである参加者はご本人のみならず他の参加者に分ける塩飴まで持参してくれていて、その荷はさらに重量を増す。きついコースなら紙一枚でも減らしたいのが本音だが、より良いガイドサービスのためには、汗をかきながらその荷を朗らかに担う事となる。

栗林講師のお話は熊野古道全体のご説明と出発地点の京都からの距離から始まる。時代を越えて歩かれた熊野古道に今日足跡を残すメンバーの気持ちが一段と引き締まる。リサーチのため前日入りした方、翌日以降を数日のリサーチに組んで参加した方、研修前の午前中を既に歩きで集合地点を目指した方と、研修を核にしたスケジュール立ても十人十色である。

熊野古道は研修日の数日前に台風のような雨に見舞われたとの事で、お姫様コースとはいえルートは時折枯葉に覆われ滑りやすいところや分岐が幾分分かりにくい箇所もあった。道標が明確で迷う事のまず有り得ない熊野古道だが、装備や事前のルートコンディション確認を抜かりなく業務に臨まなければいけない事を再認識した。

栗林講師のご案内は、グループのペースにも無理がなく、適度な所で立ち止まり興味深い話題を程よく盛り込んでくださり、ウォーキングツアーガイドの理想的な例を示してくださいました。「熊野の神様」に呼ばれた 20 名は本宮大社に到着し、弾ける笑顔で家路についた。

